



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— Xmasプレゼントは、かつこよくエシカルに —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

インフルエンザ流行の季節を迎えました。同時に、新型コロナウイルス感染症の「第3波」が到来しているのではないかとわれています。コロナ禍で、働き方や生活の仕方が大きく変わりました。

コロナ禍は、大量生産・大量消費を続けていはいけないことを気づかせてくれました。エネルギー、資源、食糧は無尽蔵ではないのです。地球は、一つです。

■「つくる責任 つかう責任」

2030年に向けた世界共通の行動計画SDGsのことは、ご存知のことと思います。「エス・ディー・ジーズ」と読みます。17あるゴールの一つに「つくる責任 つかう責任」というゴールがあります。どういふことなのでしょう。地球温暖化と関係があるのでしょうか。

「つくる責任」とは、人権や環境に配慮して、製品をつくりサービスを提供することです。地球にこれ以上の負荷をかけないことです。地球温暖化防止そのものです。

■エシカル消費

では、「つかう責任」とは、どのようなことを言うのでしょうか。「2時間で働こう。」の2 hours 代表の鷺谷恭子さんに教えていただきました。

「つかう責任とは、食べたり、着たり、使ったり、私たちが毎日当たり前に繰り返す消費者としての選択を、環境や人、社会に思いやりを持って丁寧に行うことです。エシカル消費とも言います。」「エシカル消費は、投票権のようなものです。私を起点にして、世界に、地球につながっているのです。」

■みんなでできる地球温暖化防止活動

「つくる責任」と「つかう責任」の両方の「責任」を自覚することがエシカル消費のようです。鷺谷さんから、「Xmasの季節です。オーガニックコットンやフェアトレードのエシカル製品を、大切な方への贈り物に選んでみてはいかがでしょう。かつこいいと思いますよ」とアドバイスをいただきました。エシカル製品には、サステナブル・ラベルが貼ってあることが多いといひます。

(連絡先) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>